

# 第2部

## 基本構想



# 1 町の将来像とまちづくりの基本方針

リコモが創り出す新たな交流でにぎわいが生まれ、休日は豊かな自然や土とふれあい、心も体もリフレッシュ。

子どもからお年寄りまでが元気いっぱい活気にあふれ、～住んでみたい、ずっと住みつづけたい～とだれからも親しまれるまちを目指します。

そこで、10年後の「町の将来像」と、「まちづくり5つの基本方針」を次のように定めます。

## 町の将来像

人が輝き 緑があふれる 交流都市 長久手

## まちづくりの基本方針

文化をみがき  
人が輝くまち

リコモでにぎわい  
交流するまち

万博理念を継承し、  
自然・環境に  
こだわるまち

人がいきいきと  
つながるまち

みんなの力を結集する  
自治と協働のまち

## 2 まちづくりの具体的な進め方

### 基本方針 1 万博理念を継承し、自然・環境にこだわるまち

#### 目指すべき姿

愛・地球博が世界に向けて発信した理念を継承し、人と自然にやさしい持続可能な循環型社会を実現することにより、「自然・環境にこだわるまち」を目指します。

#### 具体的な進め方

##### 田園バレー事業を力強く推進します

田園バレー事業を引き続き展開することにより、新たな農業生産法人による営農体制を構築し、前熊第4工区の遊休農地を活用して、遊休農地の解消、食育の推進、地産地消に努め、新たな事業を中心に、都市と農村の交流を推進します。

公園・緑地や里山は、小・中学生の自然体験や農業体験、ものづくり体験など体験学習の場として活用します。また、これらを保全する担い手を発掘、育成する仕組みづくりを検討します。

河川や水辺は、地域住民の貴重な親水空間として整備します。特に香流川は、町の東西を結ぶ貴重な「水・緑の軸」であり、親水空間の整備と合わせて、自転車・歩行者道も整備します。また、川や水辺空間を楽しむイベントを開催し、公共空間は住民自らが守り育てる場所であるという意識の醸成を図ります。

##### 環境にやさしい活動を推進します

公共施設を中心に、太陽光発電、屋上・壁面緑化を積極的に推進します。また、CO<sub>2</sub>排出量をはじめとする環境負荷低減効果などの目標を設定した計画を策定します。

住民一人ひとりの環境行動の定着化を図るため、雨水利用や節電などの推奨、バイオ燃料・天然ガスなど新エネルギーの活用、エコマネー制度<sup>1</sup>の普及などに取り組み、町全体でCO<sub>2</sub>の削減を目指します。

ごみ対策としては、ながくてエコハウスを拠点に3R（リデュース・リユース・リサイクル）活動に加え、リフューズ、リペアを加えた5R<sup>2</sup>活動の周知や定着化を目指します。

本町には、単身の学生が多いことから、転出入時に必要な生活用品のリユースやごみ出しルールの徹底化の施策を推進するなど、廃棄物の削減やマナーの向上を図ります。

1 エコマネー制度：日常的なエコ活動が、ポイントや地域通貨という形で反映される仕組み。

2 5R：廃棄物が発生しない5つの仕組みを総称したもの。ごみの発生抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル）、ごみになるものは買わない（リフューズ）、修理して使用する（リペア）を指す。

## 基本方針 2 リニモでにぎわい交流するまち

### 目指すべき姿

長久手古戦場駅周辺を新たな中心拠点として整備し、沿線を中心とした集客施設が連携することにより、新たな交流や魅力を引き出す「にぎわい交流するまち」を目指します。

### 具体的な進め方

#### にぎわいとうるおいある市街地を形成します

リニモの駅周辺を新たな地域拠点と位置づけ、地域特性を生かした市街地を形成します。特に、長久手古戦場駅周辺は、商業をはじめとする集客機能や行政機能など諸機能を集積し、本町の新たな顔（シンボル・コア）として整備します。また、駅周辺の新たな開発にあたっては、CO<sub>2</sub>排出の抑制など、環境にやさしいまちづくりを検討します。

リニモ沿線の活性化を図るため、N - バスや名鉄バスなどとの交通ネットワークを強化します。また、公共交通中心の移動手段を促進するなど、エコモビリティ<sup>1</sup>の実現に向けて積極的に取り組みます。

町西部では、土地区画整理事業により連続したまとまりある市街地が形成されてきました。今後は、さらに住宅地としての質を高めるため、公共施設や道路空間、都市公園を中心に緑化を推進し、民有地においても屋上緑化や壁面緑化を働きかけることにより、都市部においても緑豊かな風景の創出を推進します。

#### 交流を促進し活力と魅力を高めます

愛・地球博記念公園（モリコロパーク）やトヨタ博物館、長久手古戦場公園、名都美術館、ござらっせ、あぐりん村などの個性的で魅力ある多くの観光資源のネットワークを強化し、町外からも人が訪れる交流のまちづくりを推進します。また、商工団体、伝統文化保存団体や地域間交流を進める長野県南木曾町などとの連携により、新たなイベントの創出や定着化を図り、集客力の向上に努めます。

沿道型サービスの商業施設など新たな事業者が増えたことを受け、事業者同士の連携が図れるような仕組みづくりを行い、地域の魅力を高めていきます。

活力ある地域を創出する観点から、新規事業者による企業立地に対する環境整備や誘致を図り、町内における雇用を促進します。

1 エコモビリティ：自動車と公共交通、自転車、徒歩などをかきこく使い分ける、環境にやさしい交通移動に関する取り組みのこと。

## 基本方針 3 人がいきいきとつながるまち

### 目指すべき姿

住民が健康で安心・安全に暮らすため、地域全体で支え合うことにより、住民同士が「いきいきとつながるまち」を目指します。

### 具体的な進め方

#### 健康でいきいきとした暮らしを支えます

健康診査や健康教育、相談事業など、住民それぞれの生活にあわせた健康づくりを支援することにより、住民一人ひとりの健康づくりの意識の高揚を図ります。

ボランティア活動やコミュニティビジネス<sup>1</sup>活動への参加に対する支援を行い、元気な高齢者がいきいきと暮らし、生涯現役を続けられるような環境づくりをします。

安心して医療、介護、福祉サービスが受けられるよう、地域住民と医療機関や福祉施設が連携し、地域全体の支え合いにより、だれもがいつまでも安心して暮らし続けられる仕組みづくりを整備します。

安心して子どもを産み育てていくため、各種支援事業の充実を図ります。また、保育所、幼稚園、学校、児童館、青少年児童センターなど次世代を育成する施設と地域が連携し、地域全体で子どもを育てる環境の整備に努めます。

#### 人と地域がつながり、安心して安全な暮らしを支えます

災害時、緊急時の情報通信システムの構築、建築物の耐震性の向上支援など、被害を最小限に留める事前対策とともに、被災者への支援、地域の自主防災組織活動への支援など、被災後の復旧対策の強化を進めます。

住民による自主防犯活動を支援し、警察や行政によるパトロールの強化など、それぞれの活動主体が連携した防犯体制の強化を図ります。また、夜間の犯罪防止のため防犯灯の整備を進めます。交番の新設については、警察に強く要望します。

登下校時の安全パトロールや通学路の安全点検の実施など、地域で子どもを見守る体制を充実します。また、交通安全意識の啓発に努めるとともに、道路改良や歩道の設置など、交通事故防止のための交通安全施設<sup>2</sup>を整備します。

1 コミュニティビジネス：地域の課題を地域住民が主体的に、ビジネスの手法を用いて解決する取り組み。

2 交通安全施設：交通の安全と円滑、交通公害の防止等を目指して整備される交通管制センター、信号機、車両感知器、交通情報板、道路標識、道路標示などの施設。

## 基本方針 4 文化をみがき、人が輝くまち

### 目指すべき姿

子どもをたくましく心豊かに育成し、だれもが「いつでも・どこでも・継続的に」スポーツや文化・芸術に親しむことにより、「人が輝くまち」を目指します。

### 具体的な進め方

#### 感性豊かな人材の育成を支えます

学校、家庭、地域が連携し、地域に根ざした教育を推進するとともに、子どもの個性を生かした教育内容の充実を図ることにより、社会の変化に柔軟に対応し、たくましく生きる心豊かな児童と生徒の育成を支えます。

住民の多様なスポーツ・レクリエーション需要に対応するため、町内の既存のスポーツ施設の再整備の検討や、各種スポーツ事業や指導体制の充実により、だれもが「いつでも・どこでも・継続的にスポーツに親しめる環境づくり」を目指します。

第二の人生を楽しむ高齢者の増加や多様な余暇の過ごし方を背景とした生涯学習ニーズに対応するため、講座・学習情報の提供や大学と連携した生涯学習講座を拡充するなど、だれもがいつまでも学び成長できる学習活動を支援します。

#### 個性豊かな文化芸術の創造を支援します

文化の家での様々な活動や愛知県立芸術大学との連携により、若手芸術家を地域で育む土壌を形成するとともに、文化芸術のまちとしての質の向上を図ります。

長久手アートフェスティバルや子ども文化芸術体験プログラムの定着化を図るとともに、特技を持つ人の発掘など、住民参加による芸術イベントや文化芸術に親しむ機会の充実に努めます。

伝統的な祭礼行事はまちの資産であることから、地域における保存・継承活動への支援を行います。また、郷土の歴史を学び親しむ場として、郷土資料室を含めた古戦場公園の再整備を検討します。

## 基本方針 5 みんなの力を結集する自治と協働のまち

### 目指すべき姿

住民と行政とのパートナーシップ体制の構築、地域の結束の強化、きめ細やかな行政サービスの提供により、「みんなの力を結集する自治と協働のまち」を目指します。

### 具体的な進め方

#### 地域自治と住民協働を進めます

大学、研究施設、住民団体をこれからのまちづくりの担い手として、それぞれの得意分野に応じて町との協力関係を作ります。特に、町内の大学との連携・協力体制を一層強化し、大学が地域の活動に参加するような仕組みづくりを行います。

伝統的な祭礼行事、河川や公園・緑地などは、住民や地域の貴重な財産であり、これらの継承や保全に関する地域活動を積極的に支援するとともに、住民の主体的な参加の機会を提供します。これら地域の財産を守る心を育てることや、防災、防犯など日常生活に密着した地域活動を支援することで、住民同士の交流を促進します。

自治会組織の強化のために、町と自治組織の関係のあり方を検討します。また、住民によるまちづくりに関する提案事業制度を創設することにより、住民の自発的な活動を誘発する環境を醸成し、地域の結束や魅力の向上を目指します。

#### 効率的な行政運営を行います

行政評価の徹底化などにより行政運営の簡素化・効率化に努め、人事評価により人材の育成を図り、限られた財源・人的資源を最大限に生かした行政サービスを目指します。また、住民意識調査の活用や住民との対話の機会を積極的に設けるとともに、情報公開を進め、住民ニーズに早期に対応できるような行政運営を行います。

これまでの広報紙やCATV、インターネットによる地域情報の提供に加え、新たな広報媒体や方法を今後も積極的に活用し、住民が必要とする地域情報を的確に提供することで地域への関心や愛着を増進します。

消防、環境衛生、保健医療など、広域で運営することにより効果がある分野については、県や周辺市町と連携しながら効率的な運営に努めます。また、自治体の行政運営に直接影響する地方分権改革の動向についても注視していきます。

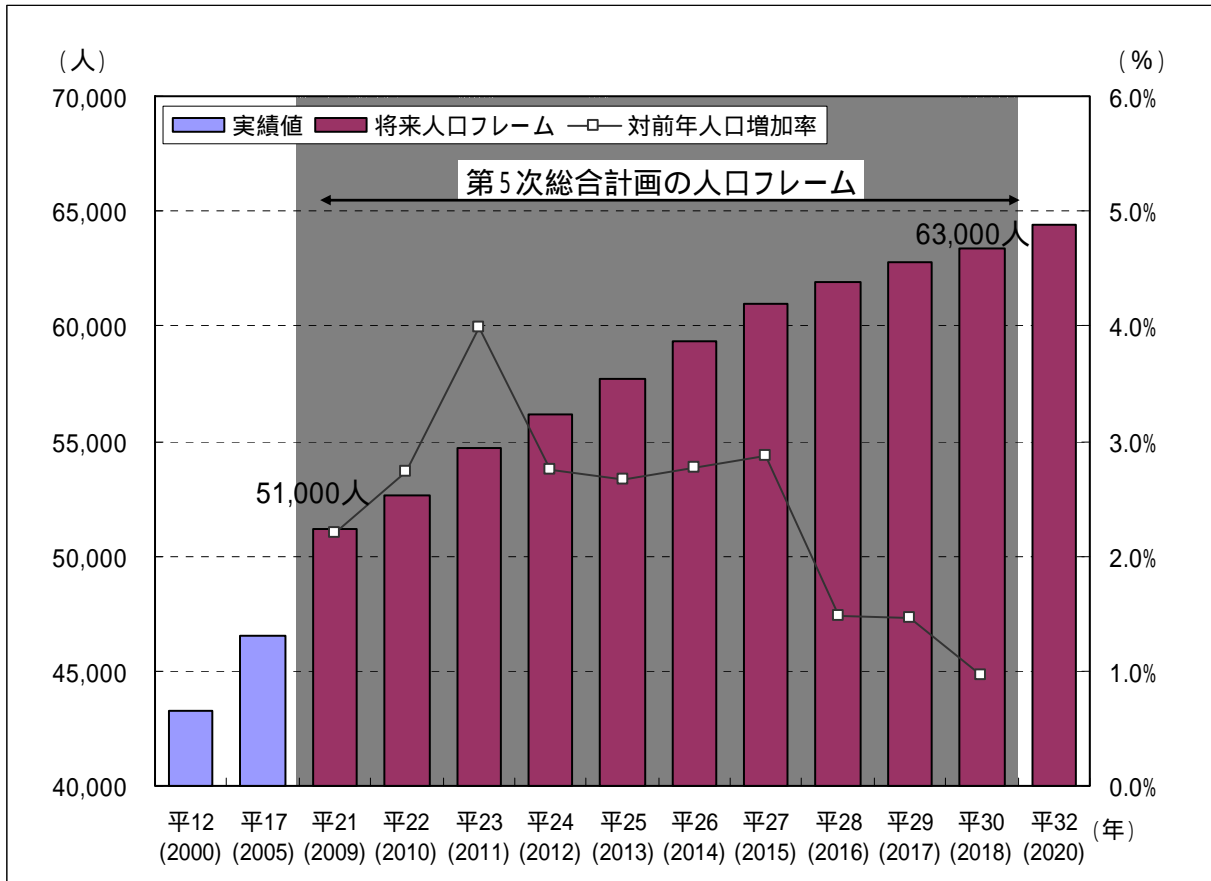


### 3 将来人口フレーム

日本の人口は平成17年に減少に転じ、愛知県の人口も同27年をピークに減少すると予測される中、本町の人口は、土地区画整理事業やリニモを基軸としたまちづくりなど、本計画に盛り込まれた各施策を展開することにより、計画期間中は増加すると予測します。将来人口フレームは、以下のとおりです。

基本構想・基本計画 平成30年 63,000人

#### 将来人口フレームの推移



## 4

## 土地利用構想

## シンボル・コア

- ・リニモ長久手古戦場駅周辺の町中央部は本町の新たな都市核(シンボル・コア)として、商業、レクリエーション、住宅など複合機能の立地を図ります。

## 住宅地・その他の宅地

- ・リニモの各駅周辺については、公共交通利便を生かした土地利用を推進し、適切な土地利用の展開を図ります。
- ・引き続き土地区画整理事業による都市基盤整備を行い、今後も西部地域を中心に低層住宅を主体とする宅地形成を図ります。
- ・特に、新たな人口の受け皿として長湫南部地区において、緑豊かな特色ある住宅地の形成を図ります。
- ・公園西駅周辺においては、モリコロパークや田園バレー事業の理念を継承し、特色ある交流が可能となるような土地利用の誘導を図ります。

## 土地利用構想図



## 農用地

- ・香流川上流部周辺は水田が広がっており、後背の丘陵地や農村集落と一体となって田園風景を形成していることから、田園バレー事業を推進し農用地の保全を図ります。

## 森林

- ・大草丘陵から三ヶ峯丘陵にかけての東部丘陵は、緑豊かな本町を印象づける重要な景観要素としての役割を果たしていくことから適切な保全を図ります。
- ・農用地、森林など適切な土地利用に向け、住民、行政、NPOなどが連携した土地利用を推進します。

## 商業地・工業用地

- ・県道力石名古屋線をはじめとする幹線道路沿道を中心に、多様化する消費者ニーズに対応した魅力ある商業施設などの立地を誘導します。
- ・東名高速道路沿いおよび瀬戸市に隣接する地区は、環境上の問題や現在の企業立地状況を考慮し、工業用地として位置づけます。
- ・特に、瀬戸市に隣接する地区については、広域的観点から研究施設などの適切な土地利用の誘導を図ります。



凡 例	
	シンボル・コア
	住宅地
	農用地
	森林
	商業地
	工業用地
	その他の宅地
	その他(大学、高校、研究施設など)